

誰もが学びやすく居心地のいい学校づくりに向けたニーズ調査について

第4・5回高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会の主な意見

◆対象児童生徒や役割の明確化

- 校内サポートルームや教育支援センター、その他の施策等の支援と異なるような児童生徒像。
- 対象児童生徒の明確化が、抽象的ではないスクールビジョンにつながり保護者と子どもが選択しやすい学校になる。
- 子どもたちの進路保障やキャリア教育、進路を見据えたカリキュラムが必要。

◆地域との連携

- 特徴的な連携を活用した学びの場を設ける事が重要。例えば、地域の企業や団体との連携を通して実践的な学習や活動、インターンシップの提供がある。
- 県社協と連携し、社会福祉施設へのボランティア体験等で地域の方々との関わりを築いたり、役割をもつことで、自己肯定感の向上にもつながる。

◆設置場所

- 子どもたちが行きやすい場所にある。
- その場所で実現できるカリキュラムやどのように子どもを育成できるかという観点で設置場所を考えるということも一つである。
- 子どもたちが選択できるようにするためにはいくつかの学校が必要。

◆ニーズ調査の重要性

○どのような学校だったら行きたくなるのか、子どもたちはどのような学校を求めているのか、子どもの声を聞くことが必要。(居心地のいい環境、学びの内容・方法など)

ニーズ調査の実施(案)

【調査期間】 令和6年2学期始業から10月末まで

【調査対象】 不登校支援プロジェクト事業(校内サポートルーム11校)、全教育支援センター、高知県心の教育センター等の利用者で小学校4年生～中学校3年生で教室以外で授業等、支援を受けている児童生徒及びその保護者(指定校約170名+教育支援センター・心の教育センター利用者 等)

【調査方法】 調査への参加の可否を問い、調査可能な児童生徒・保護者については、児童生徒や保護者の状況を考慮のうえ、ヒアリング形式で確認するか、一人一台端末でGoogleフォームを活用したオンライン回答とする(紙面回答も可)。保護者については、二次元コードから携帯端末等での回答も可とする。

※児童生徒、保護者のいずれかのみでの回答でも可